



令和7年2月3日  
都立品川特別支援学校長  
田島 忍  
担当 主任養護教諭 小西 千絵

立春を迎え暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きます。子供たちはあと2か月で進級・進学ですね。何かと慌ただしい時期ですが、体調不良時は無理をせず早めに休息をとり、健康に気を付けていきましょう。

\*\*\*\*\*保護者の方へ\*\*\*\*\*

【2月保健行事予定】

日	曜日	項目	時間	小学部	中学部
5	水	健康相談	9:15～	該当者	該当者
26	水	整形リハビリ相談	9:00～	希望者	希望者

【3月保健行事予定】

日	曜日	項目	時間	小学部	中学部
5	水	健康相談	9:15～	該当者	該当者
12	水	整形リハビリ相談	9:00～	希望者	希望者

\*\*\*\*\*

保健関係提出書類の更新をお願いします

①「主治医意見書」「学校生活管理指導表」「緊急時与薬依頼書」等の確認について ※対象：該当者のみ

配布日 令和6年12月20日(水)

提出期限 令和7年2月14日(金)まで

該当の御家庭に対し、主治医意見書・学校生活管理指導表・緊急時与薬依頼書の用紙を配布しています。受診の際、主治医の先生に記載内容を確認していただき、学校に御提出ください。

受診予約等の関係で提出が2月14日(金)以降になる場合は、連絡帳にて御連絡ください。

原則として、御提出していただくまでは令和7年度の給食対応(アレルギーや形態食)及び宿泊を伴う行事、水泳授業等への参加が難しい場合があります。学校生活を安全に過ごす上で重要な書類ですので、必ず御提出をお願いします。

\*主治医や病院が変更になった、新規に通院を始めた際は、保健室までお知らせください。

②「保健調査」「結核問診票」「心臓検診調査票」について ※対象：在校生(新小1・新中1は入学事前体験会にて配布)

配布日 令和7年2月25日(火)

提出期限 令和7年3月7日(金)まで

③「災害時用予備薬(服薬のある児童生徒)」 ※対象：希望者のみ

配布日 令和7年2月25日(火)

提出期限 令和7年3月7日(金)まで

大規模災害発生時の帰宅困難の対策として、常時服薬があり、学校に非常災害時の服薬の預けを希望する児童・生徒は、3日分の常備薬を御提出ください。

※②・③の書類は「保健関係書類提出封筒(保護者記入用)」にてまとめて配布いたします。詳しい提出方法や書類の説明などは、同封している「保健関係書類について」を御参照ください。

●寒さ+乾燥=皮膚トラブル?!

冬は寒さと空気の乾燥で皮膚のトラブルが増えます。保健室にも、乾燥してかゆくて引っ掻き血が滲む、掻き壊して真っ赤になる、鼻の下や頬がガサガサしている等の症状で来室するお子様が増えてきました。

★鼻の下や頬の皮膚がガサガサ、背中や四肢の乾燥、かゆみがあるお子様

・お子様の皮膚にあった保湿剤をお使いください。できれば1日2回、登校前と入浴後に保湿剤を塗布することを勧めます。保健室では、乾燥肌でかゆみがあるお子様にはワセリンを塗布しています。

★手洗い・・・水分が残っていると、余計に乾燥してしまいます。清潔なハンカチで拭くようにしましょう。

気をつけたい

肌トラブル

しもやけ

寒さで血液循環が悪くなり、手指や鼻、耳などがはれる。

予防

手足を濡れたままにしない。靴下や手袋が濡れたときは、交換を。

ひび・あかぎれ

乾燥によって肌の表皮が割れる。ひどくなると出血する場合も。

予防

手洗いをするとき  
は石けんをよく流し、  
水気をしっかりふき取る。



あせも

暖めすぎ、厚着のしすぎなどで蒸れる。冬服の素材も原因に。

予防

汗はこまめにふき取り、肌を清潔に保ちましょう。刺激にも敏感になるので、保湿を忘れずに。

痛みや暑さなど、自分で上手に伝えられない子どもたちのために、少しでも早く気づいてあげたいですね。

合併症の危険も

溶連菌感染症に注意



子どもの間で流行しやすい溶連菌感染症。溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、風邪と似た症状が現れますが、風邪とは異なる特徴がいくつかあります。

症状

- 発熱・のどの痛み  
せき・くしゃみはほとんどない
- 全身の発疹
- 舌の赤いブツブツ  
など

▲ 注意 ▲

- 感染力が強いため、左記の症状が見られたら登園を控え、病院へ。園にもご連絡ください。抗菌薬の服用後24時間が経ち、体調が良ければ登園できます。
- 抗菌薬は決められた期間服用しないと、再発したり、後で腎炎などの合併症を起こしたりする危険があります。症状がおさまっても飲み続けましょう。



お子さんからうつらないように 家庭内の感染予防 4つのポイント



お子さんが感染症にかかり看病に追われ、治ったと思ったらご自身が倒れてしまった……そんな事態を防ぐための、家庭内でできる感染予防のポイントをお伝えします。

1. 手洗い・消毒

看病をした後は石けんで手洗いを。電気のスイッチやトイレの水洗バーなど、よく触るところの消毒も大切です。



3. 食器はよく洗う

子どもの唾液がついた食器には細菌やウイルスが。洗剤でしっかり洗います。

2. タオルを共用しない

タオルを介した感染も多いです。ペーパータオルを準備しておく◎。

4. マスクをつける

不織布マスクは子どもからの飛沫感染をある程度防げます。

